

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 25 日現在

機関番号：22701

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23660071

研究課題名(和文)高機能自閉症児の母親のソーシャルサポート及び理解向上のための支援ガイドの検討

研究課題名(英文) Social support for mothers of children with high-functioning autism and a support guide to improve understanding

研究代表者

藤田 千春 (FUJITA, Chiharu)

横浜市立大学・医学(系)研究科(研究院)・客員研究員

研究者番号：70383552

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円、(間接経費) 450,000円

研究成果の概要(和文)：地域の就学時期にある子どもをもつ母親が、高機能自閉症児とその母親の状況を理解し、支援につなげられるような学習会の内容について検討するために、まずは高機能自閉症の学童を持つ母親のソーシャルサポートを明らかにした。母親らの語りから、身近な人からの理解や養育支援、児の社会的向上につながる支援はサポートとして認知されていた一方で家族やママ友(達)をはじめとする地域の人々からの理解不足が聞かれ、地域のママ友(達)世代に理解を促す必要性が明らかになった。この結果より、通常学級に在籍する学童の母親に高機能自閉症児の母親の状況や母親同士の助け合いについて質問紙調査し、母親間の助け合い可能な項目が抽出された。

研究成果の概要(英文)：This study first identifies social support needed by mothers with high-functioning autistic (HFA) children in order to define the subject matter of study sessions for other mothers with children in the local school, so these mothers can better understand the circumstances and provide support to mothers of HFA children. Certainly, the mothers with HFA children recognize that understanding, nurturing support, and efforts of people in the community to improve the social skills of their children are supportive, but they nevertheless feel some family members, well-meaning mothers, and others in the community lack understanding, and this demonstrates a need to promote better understanding among the generation of mothers in the community. Based on these results, a questionnaire survey was given to the mothers with children in the school regarding the circumstances of mothers with HFA children and how mothers might help one another, and a range of mutual support strategies were identified.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：ソーシャルサポート 母親支援 高機能自閉症 学童

1. 研究開始当初の背景

平成 14 年実施の文部科学省の調査において知的発達に遅れは無いが、学習面か行動面で著しい困難を示す児童は 6.3%といわれている(文部科学省.2002)。このことから、通常級に高機能自閉症の児が在籍していることが推測される。中でも高機能自閉症児(以下:児とする)は、一見すると定型発達児と変わらないが、障害特性からくる集団行動の困難により他児とのトラブルや集団参加の難しさが生じている(園山.2009)。また、その対処や養育を担う母親の負担は大きく、ウツを生じるケースも見られている(野邑.2010)。近年、高機能自閉症を始めとした発達障児は早期療育の機会が得られるようになってきているものの、児と母親の現状を理解している地域の人々の存在も十分と言えるか不明である。児とその母親が地域において、より良く過ごすためには地域にいる定型発達児の親が理解を深めて身近な支援者を増やすことが必要とされる。現時点で行われている発達障害の学習会、パンフレット作成では、千葉県健康福祉部障害福祉課障害保険福祉推進室が医療機関における自閉症や知的障害のある人の支援のパンフレット作成、配布を行っているもの、東京大学が一般の人でも聴講できるセミナーを行っているが、専門職や当事者を対象にしたものが多く、地域にいる幼児・学童の母親達を対象にしたものはほとんど見られていない。そのため、児とその母親の現状を反映させた地域の人々への支援ガイドを検討する必要性が考えられた。

2. 研究の目的

本研究は就学前後の児をもつ母親が高機能自閉症児とその母親への理解と具体的支援につながるような支援ガイドの検討を行うことを目的とした。その支援ガイド検討のために以下の3つを調査目標に挙げた。

(1)通常級に在籍する自閉症スペクトラム障害(ASD)児の母親が認知したソーシャルサポートを時期毎に分析し、就学前後に母親が必要としているソーシャルサポートを検討する。

(2)幼児期・学童期にある自閉症スペクトラム障害(ASD)児をもつ母親のソーシャルサポートに関する研究動向と支援の課題を明らかにする。

(3)通常級に通う学童をもつ高機能自閉症児とその母親への理解の程度、および支援可能な内容の実態調査を行う。

3. 研究の方法

(1)自閉症スペクトラム障害(ASD)の児をもつ母親が認知したソーシャルサポート調査

小学校通常級に在籍する1~4年生のASD児の母親を対象に、ASD児の就学前後に母親が感じた気がかりと養育上のストレス、ASD児の就学前後に母親が受けた実際的な援助、ASD児の就学前後に母親が受けた情緒的な支援、ASD児の就学前後に母親が充足されなかった実際的な援助および情緒的な支援について半構造化インタビュー調査を行った。得られたデータは質的帰納的に分析し、さらに認知したソーシャルサポートの時期も確認した。

(2)幼児期・学童期にある自閉症スペクトラム障害(ASD)児をもつ母親のソーシャルサポートに関する研究動向と支援の課題の文献検討

文献検索方法は医学中央雑誌、国立情報学研究所論文情報ナビゲータ(CiNii)の文献検索システムにより、2003年から2013年までの10年間の文献を検索した。検索語は「ソーシャルサポート」とし、下位に「自閉症スペクトラム障害」「親」とし、会議録を除いた研究論文を検索した。その結果全109件の文献が抽出された。その文献

の抄録および本文を精読し、幼児期・学童期の ASD 児の母親に対するソーシャルサポートや支援について述べられている 29 件の研究論文を対象とした。検討、整理内容については収載誌発行年と研究デザイン、ASD 児の知的水準や年齢によるソーシャルサポートの比較とした。

(3) 小学校 1~4 年生の児をもつ母親を対象に質問紙調査を行った。全国の公立小学校を無作為に 1000 校抽出し、調査協力依頼を行った。協力が得られた小学校に質問紙を郵送し、記入と返送を依頼した。調査内容は母親の背景、自閉症を始めとする発達障害をもつ母親の割合、母親の身近に自閉症を始めとする子どもをもつ母親の存在、KISS18(社会的スキル尺度:5段階で尋ねるもの)、高機能自閉症児の認知状況、関心、高機能自閉症児への支援意思、高機能自閉症児をもつ母親への支援意思、実施可能な支援の内容についてであった。認知状況、関心、高機能自閉症児への支援意思や高機能自閉症児をもつ母親への支援意思や支援可能な内容についてはその程度を 10 段階で尋ねた。調査期間は平成 25 年 7 月から 11 月であった。

4. 研究成果

(1)自閉症スペクトラム障害(ASD)の児をもつ母親が認知したソーシャルサポート調査について

研究協力者の概要

研究協力の得られた母親は 19 名であった。就労状況は 19 名中 14 名が専業主婦であった。家族形態は 17 名が核家族であった。他 2 名は三世帯家族であった。ASD 児の学年は小学校 2 年生が 9 名、次いで 1 年生 6 名の順であった。19 名中 11 名が通級指導教室(以下:通級)を併用していた。母親が認知している ASD 児の診断名は 19

名中 11 名がアスペルガー症候群と最も多く、次いで広汎性発達障害 3 名であった。児童精神科や臨床心理士等の専門家への初診時期は、4 歳代が 10 名と最も多かった。

就学時期にある ASD 児をもつ母親が認知したソーシャルサポートは 3 コアカテゴリ-11 カテゴリ-が抽出された(表 1)。

表1. ASD児をもつ母親のソーシャルサポート

コアカテゴリ-	カテゴリ-	サブカテゴリ-
母子の身近な人からの理解	夫や家族から理解を得る	夫が子育ての悩みを聞いてくれる 家族が児の障害の理解に努めてくれる 家族が児を好意的に見てくれる
	障害のある児の親同士で交流あう	同じ障害がある児の母親から共感を得る 障害のある児、親同士と信頼関係を構築する 通級の同じ障害がある児の母親と交流する
	周囲や児が所属している施設の人から理解を得る	療育施設の職員に気持ちを開いてもらう 児と多く関わる人には障害特性を明示して理解を得る 周囲の人のやさしい目にあずかる 学校長に児の特性を理解してもらう 同級生の親が児を気遣ってくれる 児の同級生が児の特性を受け止めてくれる 幼稚園・保育所から児の特性の理解が得られた
	療育の専門家から理解を得る	夫が児の療育に協力する 夫に家事・育児を手助けしてもらう 母親の不在時は家族が子守ってくれる
親子の身近な人からの理解	夫や家族から家事や療育の支援を受ける	夫が少時から付き合っている他児の母親と助け合える 職場が児の特性を理解した勤務調整してくれる 療育を継続するための療育手帳の交付を受ける 児の言語能力向上の機会を得る
	身近な人から子育て支援を受ける	専門施設で定期的な診察の機会を得る 専門施設から児の就学支援の情報を得る 教育委員会に在籍協を相談する機会を得る
	公的な専門施設で児への療育の機会を得る	民間サービスで児のスキルアップの支援を受ける 民間サービスから児の学習支援を受ける
	民間サービスで児のスキルアップの支援を受ける	同じ障害のある児の母親から子育ての情報を提供を受ける 同じ障害のある児の母親から就学支援の情報を得る
児の社会生活向上につながる支援	同じ障害のある児の母親から子育ての情報を提供を受ける	子どもに療育を受けさせているママ(父)の対処を見習う 同じ障害のある児の母親から療育の情報収集や情報交換をする 同じ障害のある児の母親から就学支援の情報を得る
	児の行動の意味を知るための情報提供を受ける	マスメディアから ASD の情報を得る 児の気掛りな特性を幼稚園・保育所の様子から教えてもらう 受診につながる助言を受ける
	児の学校生活の困難が軽減する支援を受ける	児が学校生活に困らないよう通級担任に調整してもらう 児の学校生活を把握する機会を得る 同級生の親から小学校の情報を教えてもらう 同級生が児に手助けしてくれる
	通級で児の学校生活の支援を受ける	児が通常級と通級を併用する機会を得る 通級の教員から児に合った対応を得る 通級と担任が連携して児の学校生活を手助けしてくれる

母親が必要としているソーシャルサポートは 3 コアカテゴリ-7 カテゴリ-が抽出された(表 2)。

表2. ASD児をもつ母親が必要としているソーシャルサポート

コアカテゴリ-	カテゴリ-	サブカテゴリ-
高機能の ASD 児に對する	知的に高いと行政からの経済的支援が得にくい	知的に高いと療育手帳交付が受けられない 手帳交付までの行政の対応が遅い
	知的に高いと公的施設の療育とその情報が受けられない	公的な施設での相談機会が少ない 受診を促されたのに混雑で診察を受けられない 障害を告知されたのに知的に高機能な療育を受けられない 定期的な療育を受けられないことで情報も得られない きょうたいの世話で療育情報を得る機会が減る
	高機能の ASD 児を理解したサービスが少ない	公共交通機関を乗り継ぐ療育サービスは遅れて行きにくい 高機能 ASD 児を理解した医療施設が少ない 高機能 ASD 児を理解した預かり施設が少ない 学内外で児の特性を理解した支援者がいない
	家族が見の障害を理解しきれない	夫が児に療育的関わりをしてくれない 家族が児の障害を受け入れられない
地域に對する	地域や周囲が ASD 児を理解してくれない	児の突発的な行動を周囲から白い目で見られる 同級生の父兄や地域の大人に同じく理解と非難される 児の障害を明示しても同級生の父兄の理解が得られない 教員に児の特性を理解してもらえない 仲の良いママ(友)が児の特性を隠蔽と分かってくれない
	就学後の療育機会が減少する	就学後は療育施設での診察機会が減少する 就学後の療育が減少する
	就学後の療育不足	通常級担任は児の困りごとの対応が不十分である 通常級での手厚い学習支援は得られない 通級教員でも障害特性に理解不足がある 就学後は児の様子を把握する機会が減る 特別支援コーディネータが専門外で相談できない
	小学校の対応が不十分である	

ソーシャルサポートの時期による検討
ASD 児をもつ母親が認知したソシ

ャルサポートとして 41 のサブカテゴリーが得られた。その中で就学前に母親が認知したサポートは半数以上の母親が療育支援を受けられたことについてサポートと認知していた。また夫から育児支援などが受けられたことも認知していた。さらに同じ障害をもつ児の母親からの就学支援の情報を得ることもサポートとして認知していた。就学後には、通常級の同級生の親から小学校の情報を教えてもらうこと、同級生が児の手助けをしてくれること、通級を併用している児の母親は通級の同じ障害がある児の母親と交流することもサポートとしてとらえていた。

一方、母親が充足されなかったソーシャルサポートは、就学前では専門施設への受診を促されたのに混雑で診察を受けられないこと、障害を告知されたのに知的に高めだと療育を受けられないことを感じていた。

就学後は、クラス内で障害を開示しても同級の父兄の理解が得られにくいことや仲の良いママ友(達)が児の特性を障害と分かってくれない状況も見られていた。療育について母親の半数以上は、就学後は療育施設での診察機会が減少することや、就学後の療育が減少することを感じていた。

(2) 幼児期・学童期にある自閉症スペクトラム障害 (ASD) 児をもつ母親のソーシャルサポートに関する研究動向と支援の課題の文献検討

収載誌発行年は 2005 年を過ぎた頃から増加傾向にあり、2010 年が 6 件と最も多かった。研究デザインは量的研究が 16 件と半数以上であった。また事例検討も 6 件見られた。調査目的は母親のストレスやサポートのニーズ、実際のサポートと告知による感情変化について調査されているものが多くみられたが、自閉症の特性から生じた行動上の問題への対応やペアレントトレ

ーニングの効果について検討したものも複数見られた。知的水準による比較では、精神遅滞を持たない ASD 児の母親のストレスの高さが示されていた。また母親に対する情緒的支援に関する文献は、幼児期 8 件 (ソーシャルサポートの乏しさ (2) 障害受容に要する期間と思い (2) 自尊心の低さ・ストレスの高さ (2) 通園施設に通うことの良い影響 (1) 保健師による関わりのニーズ (1)) 見られた。幼児から学童は 3 件で (障害児に対する母親の相反する気持ち (1) 児に関する相談相手は身内などが多く、専門家には 3 ヶ月~5 歳までに相談していること (1) 母親への困難をプロセスとして捉えること (1)) であった。学童の文献は 6 件 (母親のストレス源、精神的負担の多さ (4) 障害告知に対する自責の念などの思いと支援 (1) 母親の子育てのプロセス (1)) が見られた。

(3) 通常級に通う学童をもつ高機能自閉症児とその母親への理解の程度、および支援可能な内容の実態調査について

全国の公立小学校 1000 校の依頼のうち 113 校 2169 名の協力の返事が得られた。返送は 1269 名 (58.5%) から得られ、1220 名 (96.6%) を解析対象とした。

対象者の背景

対象者である母親の平均年齢は 38.7 歳 家族構成は核家族 812 名 (66%) が多く、ついで拡大家族 305 名 (25%) が多かった。子ども数の平均は 2.2 人であった。最高 6 名の子どもをもつ母親もいた。就労の有無は 772 名 (63.3%) が就労していた。そのうち 306 名 (25.9%) は常勤で就労していた。393 名 (32%) が専業主婦であった。

高機能自閉症児への認知

対象者に高機能自閉症児の事例を用いて認知の状況をたずねたところ、972 人 (70.6%) がややそうである~そうである

といった認知が見られた。高機能自閉症児の母親を見守りたいかについては870名(71.4%)がやや見守りたい～見守りたいと答えていた。高機能自閉症児の母親の大変さについては1094名(89.7%)がやや大変～大変と感じていた。高機能自閉症児への支援意思については、自分の子どもと仲良くさせることをまあ思うと答える母親が609名(49.9%)で半数近い解答が見られた。母親に対する支援可能な援助内容では、高機能自閉症児の母親と仲良くするに663名(51.9%)の回答が得られた。高機能自閉症児をからかわないように自分の子どもに言うことは868名(82.6%)の回答が得られた。しかし、高機能自閉症児を預かることに回答があったのは292名(24.1%)程度にとどまった。母親に協力したいについては862名(70.6%)から回答が得られた。KISS18(社会的スキル尺度)と母親の協力についての相関はなかった。

(4)総合まとめ

高機能自閉症児をもつ母親が認知したサポートのなかでも、同じ障害をもつ母親との情報交換(交流)や情報収集は有用なサポートになっていることが明らかになったため、ピアのサポートが促進されるような支援の必要性が見いだされた。また、就学後は通常級の母親が情報をくれる支援が見られた一方で、児の障害を開示しても理解が得られない状況や、仲の良いママ友(達)から理解が得られない状況が明らかになった。高機能自閉症児をもつ母親の身近な存在である、地域の母親達に対して理解を促す施策が必要とされた。

文献検討では、自閉症でも精神発達遅滞がある自閉症児より高機能自閉症児の母親の方にストレスが高いことが明らかになった。高機能自閉症児の母親の育児ストレス

が軽減する支援が必要と考えられた。また、自閉症児の母親のソーシャルサポートに関する調査研究の文献数では幼児期を対象としたものが、学童期よりも多く見受けられた。今後は学童期の児をもつ母親の調査や介入を行っていく必要性が感じられた。

学童をもつ地域の母親を対象にした、質問紙調査では、高機能自閉症と認知できる母親も多く見られたが、まだ認知できていない母親の存在も把握することができたので理解を促進させるガイド作成の必要性が見いだされた。また、地域の母親が支援可能な内容は、自分の子どもにからかわないように言うことや仲良くさせる程度までで、児を預かることはそう容易なことではないことがうかがえた。そのため、地域の母親には高機能自閉症児の特性や関わり方、高機能自閉症児の母親に対してその状況を理解することや声をかけること、仲良くすることができるようになる内容を理解促進のガイド作成に取り入れる必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

藤田千春、荒木田美香子、今井美保：自閉症スペクトラム障害のある児をもつ母親が認知したソーシャルサポート
国際医療福祉大学学会誌, 査読あり
19(2)2014.

〔学会発表〕(計2件)

藤田千春、荒木田美香子、幼児・学童時期にある自閉症スペクトラム障害の児の母親のソーシャルサポートに関する文献検討、第3回国際医療福祉大学学会学術大会、2013.9.1、栃木
藤田千春、荒木田美香子、就学時期にあるASDの児を持つ母親のソーシャルサポート、第2回国際医療福祉大学学会学術大会、2012.9.2、栃木

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等(計0件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤田 千春 (FUJITA, Chiharu)
横浜市立大学・医学部・客員研究員
研究者番号：70383552